

平成29年新年名刺交換会

平成29年新年名刺交換会が、平成29年1月16日（月）午後5時30分から生田神社会館に於いて井戸兵庫県知事をはじめ兵庫県・神戸市等関係行政機関の幹部、関係団体代表等の来賓をお迎えし、総勢168人の出席の下、盛大に開催されました。

開会に先立ち、先ず生田神社の巫女によるお神楽・豊栄の舞を奉納して参会者の繁栄を祈念し、小山会長挨拶、井戸知事及び松本顧問（兵庫県議会議員）挨拶、来賓紹介、新入会員紹介、賛助会員紹介と次第を進め、高田顧問（元神戸市会議員）の乾杯の発声により和やかな雰囲気の中で歓談に入り、出席者の交流を行いました。



豊栄の舞



小山会長挨拶

〔小山会長挨拶（要旨）〕

井戸知事をはじめご出席いただいた来賓各位、会員各位に厚くお礼申し上げます。

さて、我々業界を取り巻く環境は、少子高齢化からくる技術者・技能者の後継者問題、建設産業の担い手確保と育成対策が喫緊の問題となってきました。加えていわゆる社会保険未加入問題について、国の「社会保険の加入に関する下請け指導ガイドライン」の改訂版がこの4月以降適用・運用がされます。経営環境は、非常に複雑多様化してきているのが実態です。

このため当協会だけでなく、上部団体の日本電設工業協会や近畿6電業協会、建設業関連団体とも連携を取りながら、行政懇談会や意見交換会を通じて国や兵庫県などの指導を仰ぐとともに業界の実態を知っていただくよう陳情活動などを行っているところです。

ここで電業協会の活動の一端を紹介しますと、工業高校生のインターンシップを平成12年から実施し、これまで延べ79校747名の生徒を協会会員で受け入れ体験実習を行ってきました。これ以外にも兵庫県の入札・契約制度の「社会貢献活動」の評価点数を付与される活動など数多くの事業を行っています。私たち電業協会が一体となって活動すれば、業界の認知度が高まるだけでなく、行政を含む一般の方々への信用・信頼がより一層高まり、若者の確保や組織の活性化に繋がるものと確信しております。これからも独自の活動を取り入れ、会員拡大に繋がるよう努力して参ります。

今年は神戸港が開港して150年を迎えました。来年は、兵庫県政が始まって150年という大きな節目を迎えます。150年前と現在では、余りにも大きく生活環境や産業構造が異なっていますが、明治維新以降先人たちの苦労と努力は大変なものであったと思っています。電気設備業界においても、ガス灯が裸電球に変わり、ライフラインの電気工事、更には産業を支える動力源としての電気工事、そして今日のITを支える情報通信に係る電気工事などに対応すべく協会各社は進化し、生活に欠かすことができない電気設備を提供し、地域社会に少なからず役に立ってきたものと自負しております。そしてこの開拓精神は、親会に負けないような活動を展開している協会青年部の若者に、そのDNAがしっかり受け継いでいってもらえるものと期待しております。

平成29年が会員、電業協会にとって大きな飛躍の年となり、兵庫県をはじめ自治体の皆様にとって頼れる業界になることを誓い合って、新年のご挨拶といたします。



井戸知事挨拶



交流・懇談

井戸知事挨拶要旨

電業協会には、県政に大変なお力添えをいただいております。昨年の熊本地震に際しては早速に義援金、寄付を頂戴しました。また高校生の就業体験となるインターンシップを長年にわたって受け入れていただいております。現場体験が自分の将来に対する生き様を確かなものにし、業界に関心を持ち就業に繋がってくれば望ましいと思っております。他にも例えば道路・河川の愛護活動や子ども達の安全を地域の中で見守るこども110番の車という活動も行っております。

さて、今年はどういうことになるのだろうか。皆さん一生懸命に先行きを見極めようとされているのですが、トランプ氏の一週間前の記者団とのやり取りを聞いておましてどんなことになるのか見通せない、いろんなリスクを覚悟しなければなりません。私達もそのリスク、陥穽を良く見極めながら活動を展開していくことが必要だと思っております。

会長から来年の兵庫県庁開設150年に触れていただきました。50年前の1968年時は、高度成長期で膨張する日本の中でどのような県政を展開していくのか、県民福祉の向上や県民の豊かさをどう追求していくのかということが問われました。50年後の今は、人口が減り少子高齢化も進む中で地域全体としての活力を維持していくこと、これが県政の目標でありまして、50年前と状況は180度転換しております。

こういう難しい時代だからこそ私はもう一度原点に返ろうと言っております。2000年前後、21を迎える時、今後人口が減少し少子高齢化が進むことが予見される中で、どんな県にしていくのかということを考え、県民の参画と協働という基本姿勢で県民の夢や希望、期待をビジョンとして取りまとめその実現を図ることとしました。そのような基本姿勢で150年も臨みたいと思っております。

折角の節目ですから150年にふさわしいソフト・ハード事業を展開していきたいと願っており、県民の皆様と一緒にしっかり取り組んでいきたいと念じております。今年は、そのスタートの年に当たります。何が起きてもたじろがない、しなやかに対応していく気持ちで覚悟を決めて臨んでいきたいと思っております。

皆様の益々のご発展を心からお祈りし、引き続き県政へのご指導とご支援をお願い申し上げて挨拶とさせていただきます。

主な行政関係出席者(敬称略)

井戸敏三（兵庫県知事）、荒木一聡（兵庫県副知事）、松本隆弘（兵庫県議会議員・協会顧問）
高田 巖（元神戸市会議員）三石真也（県理事）、小南正雄（県まちづくり部長）、衣笠達也（県県土企画局長）、福本 豊（県住宅建築局長）、春名克彦（県環境管理局长）、境 照司（県企業庁次長）、高木泰幸（神戸市住宅都市局設備担当部長）、大町 勝（県住宅供給公社理事長）